

よりよい音楽を 追いかけて

音楽教育講座 鈴木 啓資 准教授

ある言葉との出会い

「誰でもまず人間でなければならない。すべての真の芸術は人間的なるものから生まれる。」という言葉を残した音楽家があります。私はこの言葉に大学生の頃に出会い、とても感動したことを今でも覚えていますし、これこそ音楽に携わる者が大切にしなければならないことだと思っています。この言葉はどのようなことを意味しているのでしょうか。私は、「音楽家であるという以前に、人間であるということ」を大切にすべきである」ということだと解釈しています。ノルウェーの作曲家であるエドヴァルド・グリーグによるこの言葉は、私の音楽人生に大きな影響を与えてくれました。

音楽という未知の世界へ

今でこそ音楽を専門としていますが、私は音楽一筋で生きてきたわけではなく、もともとは理系の人間です。小さい頃からスポーツや習い事など、様々な物事に取り組みさせてもらえる環境でしたが、音楽はあくまでも趣味であり、自己満足の世界でした。ピアノを始めるのも遅ければ、幼いころから専門的な教育を受けていたわけでもない私にとって、右も左もわからない音楽の世界に足を踏み入れるのは勇気のいることであり、進路選択の際にもかなり悩んだことを覚えています。



ドホナーニ研究の 第一人者として

私は現在、ハンガリーに留学していたことを活かして、ハンガリー音楽について研究をしています。中でもドホナーニ・エルネーという音楽家について、多方面から研究をしているところです。ドホナーニの音楽とはハンガリー留学中に会い、その魅力に引き込まれました。さらに、私が師事していたハンガリー人の先生がドホナーニの孫弟子だということもわかり、直系の流れを汲むものとして研究を行い、日本に広めたいという気持ちになりました。

ドホナーニ研究を始めてすでに8年程度が経ちますが、今でも新たな気づきや発見ばかりです。2022年には日本人初となるドホナーニに特化したCDを発売し、音楽雑誌上で高い評価をいただくことができました。そして昨年は、ドホナーニの自筆譜に基づく研究をするために4年ぶりにヨーロッパを訪れました。貴重な自筆資料を手にとって研究を行うとともに、ヨーロッパの研究者たちとのつながりをより強固なものにできたと思います。自筆資料に遡る研究は難しい面もありますが、作曲者本人が残したものだからこそわかることもあり、楽譜の裏側に隠された真意に迫るべく研究を続けています。



ハンガリーのドホナーニ研究者ヴェロニカ・クス氏と

音楽を追求する意義



ハンガリーでの演奏会の様子(ピアノ協奏曲の弾き振り)

「音楽を学ぶ」とは、どのようなことでしょうか。私の研究室の専門性に照らし合わせれば、ピアノの演奏法について研究することももちろん学びでしょう。音楽理論などの基礎的な知識を身につけることも、学びと言えます。

ピアノを上手になりたいからピアノをたくさん練習するというのも、大切なことだと思います。練習なくして上達はあり得ません。しかし、クラシック音楽というものが当時の文化や社会情勢、そして作曲家の人生などが関係していることを考えると、単に「速く正確に弾ける(指が動く)」ということだけでは本質を捉えていないと言えるでしょう。そのような演奏では誰かを感動させることはできません。近年発達が目まぐるしいAIの存在を考えると、「速く弾ける」、「正確に弾ける」ということは、この先さらに価値がなくなっていくのではないのでしょうか。そのため、私は音楽さえ取り組んでいれば良いという考えではなく、音楽以外に取り組んで様々な経験を積み、その経験を音楽に活かしてほしいと思っています。





本学は教員養成大学であるので、音楽実技については必要最低限の学びで良い、言い換えると音楽を極める必要がないと考える方もいるでしょう。しかし、ここで思い出していただきたいのは、冒頭で紹介した言葉です。「芸術は人間的なるものから生まれる」ということは、その人の人間としての価値や有り様などが芸術に反映されてしまうということです。

つまり見方を変えれば、音楽を真の意味で極めるということは、人間性を高めるということであり、それは将来的に教職につく学生たちにとって、最も必要なことの1つであるということと言うまでもありません。そのため、たとえ音楽大学と異なるカリキュラムで動いている教員養成大学であっても、音楽を極めることは深い意義があると考えます。そして、学生たちに極めたいという気持ちがあるのであれば、その気持ちに応え、できる限り一緒に高みを目指していきたいと思っています。

鈴木研究室には現在11名の学生(学部3回生5名、4回生5名、大学院生1名)が所属しており、学生が演奏したい曲や学びたいことを大切にしながら、演奏と論文の両方に取り組んでいます。音を扱うという音楽の特性から、複数の学生を同時に指導できません。そのため個人指導が基本となりますが、通常の授業に加えて長時間の個人指導を行うということは、教員にとってかなりの負担であることは事実です。しかし、学生たちの成長や演奏会での演奏を目の当たりにすると、その可能性を大きく感じるとともに、自分も頑張らなくてはという気になり、元気をもらっているように感じています。今後も引き続き、学生とともに成長していきたいと思っています。



プロフィール



音楽教育講座

鈴木 啓資 准教授

ハンガリー国立リスト・フェレンツ音楽大学大学院修士課程(ピアノ)修了
東京音楽大学大学院音楽研究科音楽専攻博士後期課程修了 博士(音楽)
2022年4月着任。2022年4月より現職。

ゼミ生からの研究室紹介

鈴木研究室では、ピアノの演奏法を中心に研究しています。ゼミの時間は、ピアノ実技については先生との1対1のレッスン、卒業論文の執筆は個人指導と全体指導があるので、充実した日々を過ごしています。

学内の定期演奏会だけでなく、学外のコンサートやコンクールなどで演奏する学生もあり、各学生が目標をもって楽しく学んでいます。

お互いに刺激を受け合いながら、学年を超えて仲良く活動しています!



教育学部
学校教育教員養成課程
教科教育専攻
音楽教育専修 3回生
広島県立廿日市
高等学校 出身

しも え いっ こう

下江 一倅さん

